

## 市民記者あまライターレポート

このページはボランティアの市民の方が取材・作成しています

七宝焼職人 たむら ゆうき 田村有紀さん

# 次世代の七宝焼を探求する若き五代目

私にとって七宝焼は、当たり前前に身近にあるものでした。このまちもそう。昔から地元は大好きでした。でも、高校を出る時に、もっと広い世界を知りたいと思って、東京の美術大学に進学したんです。一步外に出ると、自分の「当たり前」が当たり前じゃなかった。いつも側にあった七宝焼を、当たり前前に知らない人がたくさんいて、「まずは見てもらわないと」。大学時代から、歌手としても活動していますが、歌も七宝焼も人の目に触れてなんぼ。見てくれた人の声が、自分の次のステップにつながっています。



「いつか七宝焼がなくなっちゃうかもしれない」。そんな話が現実味を帯びて感じられるようになってきて、動き出さずにはいられませんでした。実は、「七宝焼で食べていこう」と決めた時から修行に向けてせっせと貯金もしたんですよ。そうして、2015年から本格的に七宝焼職人としてスタートしました。七宝焼の製作と同時に、私が力を入れているのは、知ってもらえるきっかけづくりです。田村七宝



工芸のウェブサイトをリニューアルしたり、ロゴのシールを作ったり、もっと人の目にとまりやすいものにしたいと工夫しました。七宝焼のジュエリーとしてのブランディングも工夫のひとつ。価格帯が幅広くとれるジュエリーなら、ほしいと思ってもらえるチャンスも増やせると考えました。実際、百貨店さんの催事などでは、20～40代の七宝焼にあまり興味のなかった人たちの反応も良いんです。七宝焼も時代によってトレンドがありますが、伝統工芸に興味を持ってもらえるフックになると実感しています。やっぱりこれも、人前に出してみても気づいたことです。

嬉しいことに、メディアに取り上げていただける機会も多く、ひとつの話が次の話につながってきています。伝統工芸を守る同世代の女性職人さんとの活動への参加等、七宝焼のPR。いろいろな挑戦を通して、尾張七宝の伝統を守っていきたい。伝統工芸としてのクオリティはそのままに見せ方を変える。次の時代に向けてできる工夫はたくさんあると思うんです。

【田村有紀】1883年創業 田村七宝工芸の四代目・田村文雅たむら たけまさの娘。武蔵野美術大学卒。さまざまな職場経験の後、2015年から七宝焼製作本格始動。七宝ジュエリーブランド「SHIPPO JEWELRY -TAMURA YUUKI-」を立ち上げる。ライブシンガーおた太田ゆうきとしても活動。 田村七宝工芸ウェブサイト <http://tamura-shippo.com>

### ■編集後記■

あま市の誇る伝統工芸を時代に合ったカタチで広めていく挑戦にワクワクしました。あま市を盛り上げる五代目をみんなで応援しましょう！  
(By市民記者 博士タロウ)